

第4章



自由意見

第4章 自由意見

本調査において、男女共同参画に関する意見・要望等の自由回答欄を設け、160人からの回答を得た。年代別に代表的な意見・要望等を整理したうえで、基本的に記述通り以下に紹介する。

年代	回答内容
20歳未満	男性の育児休暇に関して、職場内の空気取りやすくなるよう努めるべきだと思います。上の立場の人に講座に出ることを義務づけるなどして考えを変えることも大切なのではないかと感じます。
20歳代	上司と若手の考え方の違いは大きいとよく聞く。生きてきた時代背景が異なるのだから、考えが違うのはしょうがない。だから、いわゆる古い考え方も悪いとは思わない。正しい考え方は特にない。それぞれの考えを尊重できるような社会にしないと、結局時代が進んで新しい考えが出てきたときにまた対応できなくなる。
	男女共同参画社会の話が出ると、女性の優遇をより高める方法ばかりがメディアに取り上げられているイメージがとても強い。確かに女性の立場が低いところが見受けられることは多々あるが、男性にはそういったことが全くないのかと聞かれるとそれは違うように思う。現状が最高の状態ということはないはずだから、女性の待遇への改善点があるのなら、併せて男性への待遇も何か改善できるところを模索するべきではないかと思っている。
	女性が働きやすいように制度を充実させたり、男性の育児家事への参加を当たり前にしていくことは良いと思うが、出世や産後の職場復帰を望まず、専業主婦や、出世しないことを選んでいる女性も多いと感じる。
30歳代	女性の育児・家事の負担と仕事においては保育施設やサポート機関の充実はもちろん、男性の職場の環境改善が重要と考えます。女性は家、男性は仕事という考えはもう無理だし古すぎる。性別による格差がなくなって、どんな人もそれぞれいきいきと暮らしていけるようにしてほしい。また、日本は性犯罪に甘く、避妊などの知識に対して乏しい若者が多い印象を受けるので、小学校からの性教育にも欧米のように力を入れてほしい。
	社会全体の意識が変わらないと個々の気持ちだけではどうにもできないことが多い気がする。定年退職後の再雇用と子育て世代の時短、定時勤務をうまく組み合わせればフォローし合えると良い。仕事優先ではなく、家庭を優先できる社会になってほしい。
	平等という言葉にこだわり過ぎず、男女が共存共栄するための考え方が必要だと思う。女性管理職を増やす取り組みも理解できるが、男女比よりも個人の資質を重視してほしい。
	育児を行っている父親としての意見として、母親にしかできないこと(母乳)、父親にしかできないこと(力仕事)があるのでうまく両立していきたいが、仕事の都合などで時間がとれない。会社が柔軟な勤務形態ではないため、社会全体で柔軟に対応できる仕組みになれば良いと思う。また、それが単に保育や介護施設の拡充など安易(保育、介護職員への負担増)に考えるのではなく、社会全体の仕組みを変えないといけないと感じる。
	妊娠・出産する場合、女性は必ず休職や退職しなければならないので、アフターケアを会社側や、社会全体で支えられるような制度づくりが急務です。また、子育てにかかる負担が増える中でのアフターケアが受けやすい環境づくり、主に保育園の定員増やサービスの向上、能力開発学校などの充実がまだまだ足りないのかなと感じています。
40歳代	高齢者(とおもわれる方)や65歳を超える企業等のトップに対しての教育?周知等その年代の方の理解が深まれば若者はスムーズに対応していけるのではないかと。
	私は女性ですが、男女共同参画において女性側の意識改革も必要だと思います。活躍などしたくないという女性が周りに多いのも現状で、職場での女性の活躍を阻むのは意外と女性であることもまだまだ多いと感じます。また、男性の抱える負担も見直さなければ、結果として女性の参画も進まない現状のように思います。男性・女性に関わらず、柔軟な働き方の選択肢が増えることを目指せたらと思います。
	女性の障がい者はもっと社会に参画しにくく就職の難しさ、賃金が安くキャリア形成ができない仕組み。女性+障がい者とWの苦しさがある。女性の障がい者求人、パート、賃金が安い、トイレ掃除が多い。大都市と地方の男女共同参画に対する格差が大きすぎると思う。障がい者蔑視も女性の社会進出を難しくしている。
	産前産後ママヘルプサービスについて、なぜ「ママ」ヘルプなのか、理解できない。私は男性だが、かなりの家事・育児負担を担っており、仕事との両立に苦慮している。「パパ」へのヘルプも必要です。
	それぞれの個人や家庭で考え方も違います。重要なのは、それぞれの考え方を受け入れられるような街であり社会であり会社になるべきだと思います。

年代	回答内容
50歳代	<p>講演会など沢山実施してほしいです。</p> <p>学校教育、進路選択、キャリア形成、どのステージでも、職業や職種のジェンダーレス化が進むことを期待したい。それには、「女性が社会参加するために」という考え方ではなく、男女に関係なく各個人の適性に応じた職種の選択ができる環境づくりや社会の理解が必要だと思う。</p>
	<p>日々の業務の中で男女間の能力差は感じない。それでも非常勤職は圧倒的に女性が多い印象がある。性別に限らず、年齢や学歴、勤務年数、経験年数にとらわれない、柔軟な働き方ができる社会をつくるべき。そのためには、政治や行政の分野をまず改革し、女性議員や行政の女性管理職を増やし、率先して女性が活躍しやすい場をつくり、模範を示すべき。男性ばかりの議会や役場で男女共同参画が進んでいくとは思わない。女性が働き続けようとしても、保育所が見つからない、残業を強いられるなど、社会のシステムが女性をバックアップする体制になっていない。優秀な女性が活躍する場がないのは、社会的な損失。東南アジアや欧州の国では、妊娠している女性がさっそうと働いている国もある。このままでは、男女間の意識の問題だけでなく、国力の衰退を招くのではないかと懸念している。石川県も金沢市も、国内でも保守的な土地柄といえると思うが、だからこそ率先してこの問題に取り組む姿勢を示してほしい。</p>
60歳代	<p>小学校低学年から、男女の平等を教える。</p>
	<p>一時的に利用できる、育児施設、介護施設があると女性は仕事を継続しやすい。もうすでに一時的に利用できる育児施設、介護施設があるようでしたら、その情報の発信をお願いしたい。</p>
	<p>中小企業の経営者に男女平等の認識を持つよう努力すること。</p> <p>市民の意識レベルを調べる今回のようなアンケートは意義があると思います。固苦しくない、何らかの楽しいイベントを考えてはどうでしょうか。</p>
70歳以上	<p>私たちがシンポジウムやフォーラムに参加して勉強するべきだと思う。いろんなことを知らなすぎと思う。</p>
	<p>高齢の親世代との同居家庭では、急には無理の状況がみられるが、若い世代の家庭では、協力しながら、子育ての育児休暇の取得など男女平等の家庭生活の推進がみられ、日本の明るい未来に期待している。</p>
	<p>金沢市としての具体的な取り組み内容及び状況についての周知が不足していると思われる。</p> <p>主旨は理解できますが、男女の基本的な相違をまず理解した上で長い歴史の中から生まれてきた住み分けは理解する必要があると思います。やる気のある女子が男性の仕事の分野に進出するのをフォローアップすることは大事なことです。女性であるがゆえのマイナス面の理解とフォローが大切です。また、男性が女性の分野に進出する方が以外と難しいのではと思います。このあたりの理解と思いやりのない、男女が融合していかないのではと思います。分け隔てのない世の中をつくりあげることの難しさを感じます。人としての思いやりの心を育てていかないと実現できない世界かと思いますが、何とか自由自在に働ける世界がくることを願います。</p>